

第4回審議会でのご意見と今後の対応（11月6日）

項目	ご意見	計画での整理, その他対応	
芸術・文化	P.9	時代の変化とともに変わる。少子高齢化で人口構成比が変わっている。新しい文化の取組が必要。けんみん文化祭も開催されているが若い世代が楽しむためのダンス文化などが盛んでそういうところにも目を向けることが必要。	施策1の中で、ご意見の主旨を含めて記載しています。
	P.9	入館者数の目標値が出ているが、達成のためには子どもの頃から芸術文化に触れる取組が必要。将来を支えるために幼少期の時からという面が必要で取り入れてほしい。	施策1の中に、ご意見の主旨を含めて記載しています。
	P.9	もののけ、鶺鴒、神楽の継承と新たな価値を創造することを掲げている。その通りだと思う。もののけミュージアムの前にステージを設置し神楽とのコラボを模索している。鶺鴒は鶺鴒匠の継承が大事。	ご意見として承ります。
	P.9	政策1のところでの現状課題で、食育に触れた文章あるが施策に反映されていない。この分野で食文化があっても良いのでは。年代を超えたつながり、食文化を学ぶという取組を自分で行っている。そこに子どもたちや親世代が関わっていくことが必要。食べることは生きること。年代を超えて学ぶ場があるとよいと思うので食についても生涯学習がほしい。	施策3の中で、ご意見の主旨を含めて記載しています。
	P.9	生涯学習の課題に、高齢者に偏っているといった記述があるが高齢者や認知症の方にも文化に触れられるような、そのためにハード・ソフトに対策が必要。もっと具体的に考える必要がある。	施策3の中で、ご意見の主旨を含めて記載しています。具体的な取組・事業で検討します。
	P.9	目標指指標の現状値で市民の割合39.4%はすごく低いと感じる。一方で、施策2のKPIの2つ目の中高生の割合83.2%はかなり高い。この差に驚く。聞き方が大切で、大切にされているかと聞かれると大切にされていると回答するので高くなる。誇りはこれで良いかもしれないが、継承が重要。中高生で伝統文化にかかわっている人数をKPIにしてはどうか。	他に測ることができる適切なKPIがありませんので、一部表現を変えてこのままとします。
	P.9	次のページのスポーツでクラブ活動でスポーツというKPIがあるが、文化部の部活が少なく充実していないと感じる。文化部の部活動も力を入れていくと創造力の大きな子が育っていくと思う。教育分野ではなく、芸術文化のところでも子どもの部活動を取り上げてほしい。	施策1の中で、ご意見の主旨を含めて記載しています。
	P.9	施策3のKPIの2つ目、文化に関する出前講座等について、参加者数の人数だと大規模なものの評価が高くなるので、回数にしてはどうか。	文化に関するKPIについては、極端に人数の多いものはないので、このままとします。
スポーツ	P.10	クラブ所属の割合をあげる目標だと、運動が苦手な子や文化部で活動したい子の肩身が狭くなる。トップアスリートとのかかわりは良いが、運動に興味のある子が申し込むので、運動が苦手な子が入る余地がない。運動が苦手な子や運動と離れている子のための何かがあると良いと思う。	施策2の中で、運動が苦手な子などのきっかけづくりを進めるという主旨を含めて記載しています。
	P.10	スポーツについては、行うだけでなく、見る、支えるもスポーツの概念とあった。行うことが主体で書かれている気がする。もっと視野を広げるべき。	ご意見の主旨を含めた内容としています。
	P.10	スポーツとは何かわかりにくい。週に1回スポーツをしているのかというのは何を指すのか。ウォーキングなどもすべてスポーツ入ることをわかるようにしてほしい。	ご意見を踏まえ、施策分野の目標指標の表現を修正しました。
	P.10	芸術・文化もそうだが、スポーツも「中高生」「女性」という表現があり対象が特定されているのが気になる。幼児の頃からの体験が大事だとよく聞く。幼児、小学校で体験でき、長く続くようにしたい。	KPIに記載している「中高生」の表現は、中高生を対象としたアンケートになりますので、このままとします。「女性」については、本市の取組としての視点になりますので、このままとします。

	P. 10	総合型スポーツクラブは、運動が苦手な子ども、運動から距離を置いている高齢者を重点に活動している。苦手だったが少しは前向きに健康やスポーツに触れられるようになったといった意識改革につながっている。スポーツだけでなく文化の部分も活性化していくのでは。自分たちの団体も健康スポーツだけでなく文化を取り上げている。師範など持たれている人を取り込んで講師として招いて教室を開いたりといった活動をしている。関わっている人は生きがいを感じている。こういう活動を市内全域に広げたい。	ご意見として承ります。
	P. 10	目標指標は週1スポーツ実施率とあるが、指標が増えたい。	ご意見を踏まえ、目標指標を追加しました。
	P. 10	デジタル技術を使ったスポーツも引き込み、若い人に浸透させる。	ご意見の主旨を踏まえ、個別計画で整理します。
	P. 10	施策1のKPI2番目について、目標が30%とあるが、目標指標程度に上げたら良いと思う。	掲げる目標値は決して低くはありませんが、検討した結果、施策を図るのに適切な指標ではないと考えましたので指標を削除します。
	P. 10	施策3の女子スポーツという表現がある。令和4年3月に国の基本計画が作りかえられた。その中では、性別、年齢、障害の有無に関わらずといった表現に変わっているはず。女子スポーツという表現を改めるのが良い。	本市のスポーツによる地域活性化の推進という目的から、女子スポーツを推進していくため、このままとします。
定住・交流	P. 11	まちづくりワークショップでこの分野の発表を聞いた際、二拠点生活で三次市が選択されたら良いという意見があって感動した。それが反映されたKPIはない。拠点生活している人を数えることは難しい。そういうひとたちの満足度を高めることが必要。検討してほしい	測れる妥当な指標がありませんので、このままとします。
	P. 11	住みたい、住み続けたい18歳以上の市民の割合と高校生の割合があり、パーセンテージに倍半差がある。その原因を洗い出すべき。現象の原因となるものを解決することが必要。	原因として、進学先・働き口がない、都会へのあこがれといった要因があります。若い方にも魅力あるまちづくりのため、各政策にわたって取組を整理しています。
	P. 11	会議所としては、高校生と企業の交流機会をつくっている。大切なのは、三次市内に高校生が求める職業があるということ。東京都心でなくても良いという意識を高校生に持ってほしい。働きやすい場所は地方にもあって、そういう意識を高校生に持ってもらえるようにしていく。一度外に出ることは素晴らしいこと。出さないことに力を入れるというのは、地元で継承すべきことがあれば仕方ない。しかし、新しい技術や発想を得て戻ってきて力を発揮してもらおうという意識改革が必要。	ご意見として承ります。
	P. 11	三次に住み続けたい割合で高校生の割合を増やす取組があるとよい。	施策3の中で、ご意見の主旨を含めて記載しています。
	P. 11	三次への定住移住推進は魅力の発信が必要。医療や光ケーブルの状況などの良さを発信していくことが必要。	施策1の中で、ご意見の主旨を含めて記載しています。
住民自治	P. 12	目的型コミュニティという言葉が出てくるが、現状課題と施策で表現が必ずしも対応していないので確認してください。	ご意見を踏まえ、表現を修正しました。
	P. 12	まちづくりに参加している人の割合とあるが、イメージがわからない。	アンケートの設問では、自治会活動、イベント・ふれあいの活動など具体的な表記を示しています。
	P. 12	施策1の今後の取組に、地域と小中高大学との連携支援とあるが、KPIの中身は大学のみとなっている。小学生中学生高校生、今ここに住んでいる子どもたちのとの関わりが大切では。	測ることができる適切な指標がありませんので、このままとします。
	P. 12	施策2のKPIの2項目にあるマッチング件数とはどういう状況をカウントするのか。	市で行う事業の中で、カウントします。
	P. 12	住民自治の分野なので自治単位での賑わいや祭りでの支援など	自治会・常会での活動も含めて、

		も大きく掲げてほしい。	施策1の中で、記載しています。
	P. 12	政策2の「自然環境」にある環境保護活動のKPIをこちらに持ってきてはどうか。	目標指標に含まれますので、このままとします。
	P. 12	住民自治の課題については、人口減、高齢化による人とのつながり希薄化が課題で、地縁型もそうだが目的型は能動的な活動になるので、仕組みづくりをしないと難しい。医療においても、予防で検診をあげていただいているが、発症前の状態は医療でつながれない。行政でしっかり下支えしないと、絵に描いた餅になる。	人口減少・少子高齢化が進む中、多様な主体がまちづくりに関わることが大切であると考え、施策1の中でご意見の主旨を含めた内容としています。
	P. 12	防災と同じように、身近な自治組織についても、同じ問題意識が出る。組織加入率だけでなく、それを維持する目標があつてよい。	
	P. 12	住民自治の問題で移住してくる若い人は自治組織に参加してくれないという現状がある。多様なつながりを活かした地域づくりとあるが、どうやって多様なつながりを構築するかが重要。秋祭りも子ども会が参加しない、依頼しても理解してもらえないことが多い。つながる仕掛けが必要。	
	P. 12	具体的な取組・事業で検討します。	
農林畜産	P. 12	一番上の施策1の3つ目の就農者は分母があつた方がよい。	ご意見を踏まえ、施策1のKPIを修正しました。
	P. 13	施策3にある鳥獣被害対策について、山際の田んぼは太陽光や耕作放棄地にどんどん変わっている。その背景は労力と鳥獣被害。施策3の維持管理対策はしっかり補助的なところも見てもらって推進してほしい。食農教育で日本は37%の食料自給率にある。人の命は米ではぐくまれるという意識付けが必要。交付金による支援にもつながる。	ご意見として承ります。
	P. 13	食農教育は大事。みよしアグリパーク事業は実際進んでいないと聞いていて、やるにしても誰がやるかが重要。農業は担い手がない中、外から人を呼んでくるより、三次で農業を語るなら今の農業者を支援すべき。三次の良さは色々な地域に魅力があるって、それを活かした施策をあげてほしい。農業者もそれぞれの人としての良さがあるが担い手が減っている。減るということは、稼げないということ。しんどい部分がたくさんあつて、それだけじゃない所を、年配の方が子どもたちに伝えることが必要。	施策1～3の中で、ご意見の主旨を踏まえた内容としています。
	P. 13	中山間交付金、多面的交付金とあるがわかりづらい。	ご意見を踏まえ、施策3のKPIの表現を修正しました。
	P. 13	他の分野と違って農業のページは業界用語がたくさん出てくる。事業の成果が見えるような数値だけでなく、子どもたちの意識、気持ちの満足度などの目標も必要では。	測れる指標として適切なものがありませので、このままとします。
	P. 13	二拠点となると、本気の農家だけでなく土いじりを楽しめる人も関わってくる。子どもたちの教育も農業の面から。	施策1の中で、ご意見の主旨を踏まえた内容としています。
	P. 13	農業と観光をおっしゃっていただいた。コロナ前に上海や韓国から来ていた旅行者は、三次で農業体験がしたいと言っていた。観光農園でイチゴ狩りをしていただいて喜ばれた。観光と農業は大事な視点。	ご意見として承ります。
商工	P. 14	事業所数や就業者数が現状維持とあるのがさみしい。商工会の会員数や事業所数は年々減少している中で、難しい課題があるのは事実。	ご意見として承ります。
	P. 14	DXなどの先端技術を利用する企業が増えている。自然豊かな土地という資産があるので、効果的な起業支援のための具体的な施策を打ち出すべき。	市民が起業する場合の支援制度を設けており、それを含めて、具体的な取組・事業を検討します。 (回答済)
	P. 14	農林畜産と商工は離れているようで近い。農産物を加工することで稼げる農業になっていく。一緒になってどうやって売っていくか、タッグを組んで新しい試みに取り組む。そこに若い人	農産物等を6次産品化する場合の支援制度を設けており、その中で具体的な取組・事業を検討します。

		が関わっていく。何かアイデアが作り出せたらと思う。	
観光	P. 15	観光消費額が少なく、宿泊へのシフトとある。観光消費額をあげるには宿泊者数を増やすというところに行きつく。数字としてどう結果を出すかを、使命感をもってやっているインバウンドも含めて取り組んでいく。	ご意見として承ります。
	P. 15	三次に観光に来た際、市内は車がないと不便。インバウンドに限らずJRで来た人も観光スポットを回れるような何かがあると良い。	施策2の中で、ご意見の主旨を踏まえた内容としています。
	P. 15	バスや電動スクーター、レンタサイクルがあって、今後さらに充実する。	ご意見として承ります。
	P. 15	安芸高田や庄原、三次は県北のまちで河川が集合した地域。三次市だけでなく3市で観光開発をしていく必要がある。全体の図を描いて行政自ら取り組んでほしい。	施策1の中で、ご意見の主旨を踏まえた内容としています。
	P. 15	広域ネットワークの話があったが、安芸高田や安来市などとも取り組んでいるところである。	ご意見として承ります。
資料3の全体を通して	P. 4	政策2、施策2は循環型社会に重きがある。脱炭素をもう少し打ち出すと良い。	ご意見を踏まえ、施策2の主な取組を追記しました。
	P. 5	5ページの施策2について、中心市街地の話は大事。景観形成の話だけではないので独立していてもいい。	ご意見を踏まえ、施策2の施策名、主な取組を修正しました。
	P. 4	脱炭素に関わってこれからはバイオガス発電も大切。どうやったらできるかを一緒に考えてほしい。	具体的な取組・事業で検討します。
	P. 1	政策1の保健・医療について、施策3の地域に、医師会、歯科医師会 薬剤師会など3師会について具体的な明記がほしい。施策1、2は病院にかかる前の取組で、縦割になりがち。横のつながりがわかるような記載が必要。	ご意見を踏まえ、施策3の主な取組に追記しました。施策1、2も含めて、横のつながりを踏まえた施策内容としています。
	P. 1	1ページ施策1で、現状・課題では「乳幼児への」といった記載があるが、施策の中には子どもに対する医療という言葉がない。今は充実しているが文言がないと、今後取組がなくなるのではないかと不安。	政策3「子育て」分野の施策3の主な取組の中で、ご意見の主旨を踏まえた内容としています。
	P. 15	15ページの観光 質を重視した付加価値とあるが、質を重視したアプローチ（接客、ホスピタリティ醸成など）は大切。	施策2の中で、ご意見の主旨を踏まえた内容としています。
	P. 11	11ページの取組に、大きなイベント（きんさい祭り）が出てくるが、観光ではなく定住に相談ということになるのか。	施策3の中では、きんさい祭りを例としてあげています。イベントごとに所管する部署にご相談いただくこととなります。
	P. 15	イベントやコンベンションを充実できる可能性がある。スポーツ施設が充実しているので、大会誘致を積極的に行うべき。交流人口の増加につながる。	ご意見として承ります。
	P. 9	質の高いスポーツや芸術・文化にふれる機会を確保するといった文言を入れると良い。横断的なところで何か入れればよいと思う。	施策1の中で、ご意見の主旨を踏まえた内容としています。
	—	三次、庄原、安芸高田が連携してイベントをする中で、三次が中心になってやってほしいと言われる。三次は中心のまちで来やすく、色々な行事を行いやすい状況にある。三次が中心になり周辺自治体に声をかけながら進めることが期待されている。	ご意見を踏まえ、共通基盤の4「広域連携の推進」に追記しました。
	P. 9	三次は図書館も充実していて、図書館を活かすことも重要。自宅にいても移動図書で読書できるなど。	具体的な取組・事業で検討します。
	P. 11	11ページの転出者数があるが、外国人にも三次市に住んでもらえる取組がほしい。学校と連携し生徒さんにも来てもらう。どうすれば三次を発信できるか検討が必要。	政策1「多文化・共生」の中で、ご意見の主旨を踏まえた内容としています。
	P. 13	13ページにトレッタみよしのことは書いてあるが、他の道の駅の記載がない。小さい道の駅めぐりなどの取組があったらいい。	施策2の中では、トレッタみよしに限定していない内容としています。

	P. 13	13ページについて、林業が整えば農業も整うと思う。	施策4の中で、ご意見の主旨を踏まえた内容としています。
	P. 9	9ページについて、伝統文化でしめ縄の継承者が少ない。文化だけでなく技術の継承も必要。	施策2の中で、ご意見の主旨を踏まえた内容としています。
	P. 15	15ページで、観光の質について、素晴らしい観光体験が大切。人の魅力の発信が大切だと思う。	施策1の中で、ご意見の主旨を踏まえた内容としています。
	—	全体を通じて、市民団体や企業など民間の力との協働で地域づくりをすすめていく視点を積極的に取り入れていただきたい。	総合計画は市民・地域・企業・行政などが一緒になって進めていくものとして策定しています。ご意見の主旨を承りました。
	P. 4. 6. 7	三次市には「子どもの未来応援宣言」があり、豊かな自然・文化・地域のつながりを通して、実感の持てる多様な体験の機会を提供していくことが書かれています。特にふるさとの自然や地域体験は、ふるさとを大切にすることを養い、帰ってきたいまちづくり、ふるさとに貢献する人づくりにつながります。市民は「自然が豊か」と認識していますが、豊かな自然を体験できる機会は減少しています。子どもたちに体験の機会をつなぐのは大人の役割です。ぜひ三次市の自然体験や野外教育に関する項目を、わかりやすいところに入れていただきたいです。	政策2「自然環境」の施策1、政策1「教育」の施策1の中で、ご意見の主旨を踏まえた内容としています。
	P. 6	森のようちえんなど豊かな自然体験ができる場所への子育て世帯の移住が注目されています。そこで広島県が自然体験の実践の普及活動として認証制度をつくらせている「ひろしま自然保育認証制度」を活用している市町が県内に多くありますが、自然豊かな場所である三次市の保育所の登録はゼロです。幼児期の自然体験を市の取組としてすすめることは、子育てにも定住にもメリットが高いです。自然保育に認証された保育所数を評価指標に入れるなど、具体的な目標を掲げていただくなど、積極的に取り組める仕組みづくりをお願いしたいです。	市立保育所においては「豊かな人間性を育てる保育」をテーマに、自然体験も含めた保育活動を進めているところです。ご意見として承ります。
共通基盤	P. 1, 2	ツナガリ人口とあるが、資料3では交流人口・関係人口とあるので、つながり人口としても良いと思う。2ページ4の広域連携の「超」は、「越」の方が良いと思う。	ご意見を踏まえ、表現を修正しました。
	P. 2	2点目の情報発信について、「三次市に暮らしてよかった」だけでなく、外の人におすすめしたいとかそういう流れがほしい。自己満足で終わるのはもったいない。	ご意見を踏まえ、追記しました。
	P. 1	つながりによる共創について、つながるツールが必要だと思う。ツールを活用して外につながる必要がある。	具体的な取組・事業で検討します。
	P. 1, 2	資料4は教科書通り、どこの市町も同じ。三次らしさがない。市の財政は厳しくなるとあるが、理想ばかり。本当にできるのか。10年後に税金が日本一安いとか、それでいてサービスも整っている、そうなれば暮らしやすい。10年というが5年後は大丈夫なのか。もっと魅力的な文言を入れてほしい。IターンUターン、若い人を取り上げている。Iターンを集めるのなら、若い人ばかりではなく、私たちも呼んで話がしたい。	人口減少・少子高齢化が進み、財源確保が一層困難となる中、現状以上のサービスの充実が難しく、多様な主体によるまちづくりを展開することが大切だと考えます。様々な人と話ができる場については、具体的な取組・事業で検討します。
	P. 2	2ページ目の財政改革の推進に「決断力のある…行政組織づくり」とあるが、これまでの議論を振り返って、この資料自体が縦割りで、部門をまたぐイメージがない。参加した人は縦割りでない政策を期待し意見している。横軸を大切に行政組織というのををお願いしたい。	ご意見として承ります。